

鴨池地区における 「市長と語る会」発言に対する対応方針

〔開催概要〕

日時: 令和8年8月25日(火) 18:00～19:00

場所: サンエールかごしま 5階 多目的フロア

鹿児島市 市民協働課

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年8月25日（火）18：00～19：00

場所：サンエールかごしま 5階 多目的フロア

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検 討 結 果 、 今 後 の 方 針 等
1	YKP（八幡こどもプロジェクトチーム）	八幡こどもプロジェクトチームでは、毎月1回、定例会や地域調査、美化活動、留学生との国際交流などを通して、自分たちのまちを子どもの視点で見つめ直す活動を行っています。 私たちは2年前にも「市長と語る会」に参加し、公園のトイレの洋式化や遊具の老朽化について提案しました。その結果、地域の公園が整備され、とても感謝しています。 今回は、中高生も集い交流できる公園づくりについて提案します。鴨池地区には八幡公園や古田ヶ浜公園がありますが、遊具の老朽化が進み、中高生が利用できる遊具も少なくなっています。また、サッカーや野球などの球技ができる公園も減っていると感じています。 また、屋外でバスケットボールができる公園は照国に一つありますが、それ以外でできる公園は少ないと感じています。バスケットボールは私たち中高生がよく利用するスポーツなので、ぜひ八幡公園にバスケットゴールを設置していただきたいと考えています。	YKPの皆さんが、自分たちのまちを自分たちで良くしていこうという熱い思いで活動していることを、とてもうれしく思います。 その上で、「なぜ実現していないのか」「なぜできないのか」を考えることも大切です。例えば、公園でのボール遊びやバスケットゴールの設置は、お金の問題だけではなく、野球やサッカーは、ボールが人に当たってけがをさせたり、道路に飛び出して事故につながったりする心配があります。 また、バスケットゴールも、魅力的なコートができると、夜遅くまで利用する人もでてきて、公園の近くに住んでいる方から騒音への苦情が出ることもあるため、現在は町内会などを通じて周辺住民の理解を得ていただければ検討する仕組みになっていますので、YKPの皆さんや町内会の皆さんで話し合っていただきたいと思います。 将来的には地域の方々が公園のルールを決め管理する「パークマネジメント」に繋がる可能性があると思っています。	建設局	市長回答のとおり 古くなった遊具については、利用されている状況などに応じて、順番に修理を進めています。また、傷みがひどく修理できない場合は、新しい遊具に取り替えていきます。 公園でのボール遊びについては、天保山公園などスポーツのできる公園を除いて、野球やサッカーなどの硬いボールを使った遊びは、他の利用者のけがや事故につながる可能性があるため、禁止としています。みなさんが安心して利用できるよう、ご理解とご協力をお願いします。 なお、市ホームページでバスケットゴールのある公園一覧表を掲載していますので、ご確認ください。
2	YKP（八幡こどもプロジェクトチーム）	昨年から、鹿児島大学の留学生との国際交流活動に取り組んでいます。 中国やシンガポール、ナイジェリアなどの留学生と一緒に、言語活動を通して国際交流の在り方を学んでいます。 先週も、留学生と料理を作ったりゲームをしたりして交流を深めました。 YKPが中心となって、こうした活動を鹿児島市民の皆さんも参加できる交流の場として広げていきたいと考えています。	国際交流はとても素晴らしい取組だと思います。皆さんの活動がさらに広がり、市民の皆さんも参加できるような大きなイベントに発展することを期待しています。 市では、国際交流会館の使用料減免や地域イベントへの国際交流員の派遣などの支援も行っていますので、ぜひ活用してください。 また、外国の方と直接交流する機会を大切にし、クルーズ船の歓迎活動や外国人観光客へのまち案内などにも挑戦してほしいと思います。ネイティブの方と英語で話す経験を重ねながら、ぜひ積極的に取り組んでください。	総務局	市長回答のとおり
3	NPO法人鹿児島県盲ろう者友の会	盲ろう者は目と耳の両方に障害がある人のことで、鹿児島県内にも複数の方が暮らしており、その多くが一人暮らしをしています。 地震や台風などの災害が起きても、避難の呼びかけが聞こえなかったり、情報を受け取れなかったりするため、一人で避難することが非常に困難です。自宅を訪ねても、呼びかけやドアをたたく音に気づけないこともあるため、いざという時は一緒に避難できるよう支援してほしいです。 また、避難所に着いても通訳者がいなければ周囲の状況や必要な情報が分からず、1人でトイレに行くこともできません。そのため、支援が必要なことを周囲に伝えるスカーフを作り、理解を広げる活動を行っています。 盲ろう者が地域にいることを知り、災害時には周囲の人が支え合うことの大切さを理解してほしいです。	盲ろう者の方々のお話を伺い、特に一人暮らしの方にとって、災害時の避難が大きな課題であることを改めて認識しました。市としても、この課題を持ち帰って、現在の避難支援にどのような取組を加えられるのか検討していきたいと考えています。 鹿児島市では、障害のある方一人ひとりに合わせた「個別避難計画」の作成を進めています。しかし、この計画を作るには個人情報提供に関する同意が必要であり、十分に進んでいない状況もあります。災害時の支援を充実させるためにも、ぜひご協力をお願いしたいと思います。また、町内会や民生委員の皆さんが中心となって計画づくりを行いますので、地域の皆さんにも協力をお願いしたいと考えています。 さらに、支援を必要とする方が地域にいることを周囲が知り、どのような支援が必要か理解することも重要です。改めて、市民の皆さんへの理解促進に取り組んでいきたいと思っています。 また、昨年から福祉避難所を早期に開設する取組も進めていますので、こうした制度も活用しながら、災害時の安全確保につなげていただきたいと思います。	危機管理局	市長回答のとおり 災害時における障害のある方等への支援については、要介護者や重度の障害のある方などが地域の中で必要な支援を受けられるよう、避難行動要支援者支援制度の推進に取り組んでおります。 また、同制度における個別避難計画の作成についても、令和8年度から福祉専門職と連携した新たな取組を開始しております。引き続き、制度の周知及び理解促進に努めてまいります。
				健康福祉局	本市では、避難所における要配慮者支援の一環として、聴覚障害者向けのコミュニケーションボードを配備し、円滑な意思疎通に努めております。 避難所において支援を必要とされる方に対しては、避難所運営に従事する職員が避難者の状況を確認し、移動や情報提供など必要な支援を行うこととしており、盲ろう者の方につきましても、できる限り必要な支援に努めてまいります。 また、鹿児島市第5次障害者計画に基づき、盲ろう者を含む障害者が災害時に必要な情報を確実に受け取れるよう、障害特性に配慮した情報伝達体制の整備を進めています。 避難支援や安否確認体制の充実を図るとともに、避難所において必要な支援や合理的配慮が提供されるよう、福祉避難所の確保などに取り組み、引き続き支援体制の充実にも努めてまいります。

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年8月25日（火）18：00～19：00

場所：サンエールかごしま 5階 多目的フロア

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
4	NPO法人地域ねこみまもり隊	殺処分ゼロを公約に掲げていらっしゃる市長に親近感を持っています。 鹿児島市では、野良猫への給餌は、糞尿の始末や適量の給餌、不妊去勢手術などを行う「適切な方法」であれば認められています。しかし、現在市が設置している看板は「野良猫に餌をあげることは条例違反です」という文字が強調され、「野良猫に餌をあげてはいけない」と誤解している方も多くいます。保健所のホームページでは、「地域猫活動に取り組みましょう」とあり、不妊去勢手術を受けた猫には餌を与えてよいことも書かれています。 私たちは、野良猫を捕獲して不妊去勢手術を行い、元の場所に戻す地域猫活動に取り組んでいますが、「餌をあげるから猫が増える」と誤解され肩身の狭い思いをしている方もいます。 そこで、禁止を強調する看板ではなく、東京都墨田区の看板のようなやさしい表現に見直していただきたいと思っています。糞尿対策などの課題にも取り組みながら、未来を担う子どもたちが命あるものにやさしく接することができる社会になってほしいと願っています。	TNR活動をはじめ、地域猫活動に取り組んでいる皆さんに、殺処分ゼロの実現に向けて大きな力になっていただいていることに感謝します。 殺処分ゼロを実現するためには、猫への対策が非常に重要です。「殺処分ゼロ」を公約に掲げたのは、動物愛護センターの現場を見たことがきっかけでした。獣医師の方々が日々殺処分を行っている現実や、「飼い主が亡くなった」「子どもを噛んだから飼えなくなった」などの理由で犬や猫が持ち込まれる現状を知り、何とかしなければならぬと強く感じたためです。 その中で、地域猫活動を進めるためには地域の方々の理解が欠かせません。皆さんのように不妊去勢手術や糞尿の管理をきちんと行っている方もいますが、そうではない方もたくさんいるのが現実です。 しっかり活動している方とそうでない方が混同されないよう地域猫活動の普及啓発に努め、看板の文言については、その次の段階で検討していきたいと考えています。	健康福祉局	市長回答のとおり
5	個人参加者	市電の運賃が200円に値上がりしたことについて、赤字対策とこのことで理解はできますが、利用者の負担が大きいため、対策を取ってほしいと思っています。	市電運賃の改定については、将来にわたって市電を安全に運行していくため、やむを得ず実施したものとしてご理解いただきたいと思っています。 市電の経営は、基本的に利用者の皆さんからいただく運賃収入によって支えられていますが、支出には電気代や人件費、車両購入費の返済、線路の維持管理費、衝突防止装置などの安全対策費がかかっています。そのため、「市電は黒字」と言われることがありますが、実際は運賃収入だけでは年間5～6億円の赤字となっており、不足分は市民の皆さんの税金で補っています。 また、近年は追突事故の発生や線路の老朽化も進んでおり、何よりも乗客を安全に目的地まで運ぶことを最優先に考えなければなりません。 値上げを抑えて税金で赤字を埋めるという考え方もありますが、市電を利用しない方との公平性も考える必要があります。そのため、運賃改定によって一定の負担をお願いしながら、不足する分は税金で補うというバランスを取り、今後も安全な市電運行を維持していきたいと考えています。	交通局	市長回答のとおり
6	個人参加者	物価高対策として、一人当たり5,000円分のギフトカードをいただいたが、十分ではないと感じている。2回目の給付などの考えはあるか。	物価高対策の5,000円分のギフトカードは、国の物価高対策の予算を活用して実施しているもので、その財源は皆さんの税金になります。 今後の物価高対策については、国からどのような予算がどれくらい措置されるのかを見ながら判断していきたいと考えています。 また、鹿児島市の支援は市民への直接給付だけではなく、老人ホームや保育所の光熱費高騰への支援や、学校給食費の値上がり分への補助など、さまざまな形で対策を行っています。 そのため、今後の給付については、その時々状況や国・県の予算動向を踏まえながら総合的に判断していきたいと考えております。	企画財政局 健康福祉局 子ども未来局 産業局 教育委員会	市長回答のとおり

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年8月25日（火）18：00～19：00

場所：サンエールかごしま 5階 多目的フロア

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
7	個人参加者	観光振興について、韓国の友人の例ですが、鹿児島を訪れる目的として温泉はもちろん、最近ではパターゴルフやミニゴルフも人気があります。そのため、誘客の観点からもこうした施設の整備を進めていただければと思います。 次に、ダンスができる場所についてです。フィットネスジムの空いている時間を中学生が利用できるようにするなど、民間施設を活用した仕組みがあると良いと思います。今の中学生は音楽に合わせて楽しみながら踊りますし、鹿児島にはフリースタイルダンスで世界レベルの実力を持つ子どもたちもいます。そうした才能を伸ばすためにも、ダンスができる環境は大切だと思います。 次に、人口流出対策についてです。中学、高校、大学と、できるだけ若い世代が県外へ流出しない環境づくりが重要だと考えます。そのためには交通の利便性向上が必要で、例えば鴨池から紫原方面を結ぶような環状型のバス路線があれば、移動が便利になると思います。大学のデータサイエンスの授業でも学生たちが分析しており、交通環境の改善は人口流出対策にもつながると考えます。	ダンスの練習場所については、以前、中高生の皆さんと意見交換をした際にも、「練習する場所がほしい」という声をいただき、まずは市が所有する公民館や福祉館など、利用できる施設を紹介していきたいとお答えしたところです。特に福祉館は、「高齢者向けの施設で、自分たちは利用できないのではないか」と思っている学生も多いため、学生の皆さんも利用できることをもっと周知していききたいと思います。 人口流出についてですが、私は鹿児島市の役割は、県内の人口流出を食い止める「ダム」であるべきだと考えています。若い人の中には都会に憧れる人もいますが、東京まで行かなくても、鹿児島市で十分に都会的で魅力的な暮らしができる街である必要があると考えています。 さらに、一度県外に出た若い人たちに早い段階で鹿児島へ戻ってきてもらうため、「稼げる仕事をつくること」「子育てや教育を充実させること」「ワクワクするエンターテインメント」の3つの要素を柱として取り組んでいます。具体的には、待機児童ゼロの実現や、タブレット・デジタル教材を活用した学力向上、さらにはライブやプロスポーツなどを楽しめる環境づくりのため、アリーナやスタジアムの整備検討を進めています。 こうした取組を通じて、「若いうちに鹿児島へ帰りたい」「鹿児島で頑張りたい」と思える街をつくっていききたいと考えています。	企画財政局	市長回答のとおり
				健康福祉局	ダンス等で利用ができる地域福祉館の洋室については、保護者など18歳以上の方が団体の代表者となって予約や同伴していただく必要がありますが、学生の皆さんにも施設を知ってもらえるよう、若い世代への効果的な広報に取り組んでまいります。
				観光交流局	市長回答のとおり
				教育委員会	市長回答のとおり